

□巻頭言□

新しい紀要の発行にあたって

学長 谷 修一

本学の紀要は 1996 年に第一巻を発行しておりますが、昨年来、紀要の意義、あり方等についての学内での問題提起を受けて検討を重ね、この度第九巻の発行にあたり内容を一新し、新たな紀要として再出発することにいたしました。

国際医療福祉大学紀要の目的を、「国際医療福祉大学及び関連臨床施設に勤務する教員の研究成果を広く世に問うとともに研究活動を集約したものであり、これにより本学等の研究の一層の発展に資すること」とし、従来の論文等のほかに「研究活動報告」の項目を設け、各学科、各センター、関連臨床施設等の研究活動の要約等を含めるとともに、年一回の発行を二回に改めました。

従来の紀要の考え方に従えば、紀要は論文を載せるものであり単なる研究活動の記録や論文の目録を載せるものではないとの意見があることは承知していますが、一方、紀要が大学の研究活動の高さや活発さを示す一つの手段でもあると考えた場合、論文だけがそれを現すものではないと思います。教職員が発表した原著や著作、獲得した競争的研究資金、本学教員が主宰した学会、研究会等は、研究活動であるのみならず、本学の研究の質を示す重要な指標と考えるべきです。

また、本学のような多くの付属関連臨床施設を持つ組織においては、学生の教育のみならず、研究面においても連携、協力の関係を保ち、これら関連施設も含めた研究活動の記録を内外に示すことは、グループとしての一体感並びに存在感を示す意味でも意義あることと考え、その意味で、大学及び関連臨床施設で行われる研究活動をまとめて、「この一冊でその年の国際医療福祉大学及び関連グループの研究活動の全体がわかる」雑誌を目指すことが大きなねらいです。

同様に大学の年報についても、関連施設も含めた教育活動の記録を示し、本学の特徴である多様な臨床施設での実習教育の実践が理解できるようなものにすべく、その構成等を検討しております。

作業にあたっていただいた紀要委員会の皆さんをはじめとする多くの関係者の方々に御礼申し上げるとともに、本書をご覧いただいた皆様からの忌憚のないご意見を賜れば幸いです。